

日本YMCA同盟

THE  
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.825 2023

2023年4月1日発行（毎月1日発行）  
1947年10月27日 第三種郵便物認可  
本体価格45円（外税）（送料63円）  
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟  
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号  
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641  
URL : <https://www.ymcajapan.org/>  
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



OPINION

## 若者たちへ 「もっと自由に、夢をもって」

大阪YMCAグローバル事業推進室 室長 ドミニク・パングラッシオ

「大阪YMCAグローバル事業推進室」は、若いグローバルリーダーの育成を目的に2015年に開設されました。年に一度、国内外から参加者を募り「グローバルユースカンファレンス（GYC）」を開催しているほか、毎年約30人のインターンを受け入れるなどして、ユースの育成に努めています。これまでにアジア諸国をはじめヨーロッパ、アメリカなど約30カ国から500人以上が参加しました。

コロナ以前の「カンファレンス」は毎年3泊4日、六甲山YMCAを会場に、社会課題を学ぶワークショップや文化交流をしていましたが、2020年からは休止となり、昨年度はオンラインで開催、今年度はハイブリッド形式で実施しました。カンファレンスは企画から運営まで30歳以下のユースたちが担っており、毎年のテーマ設定もユース自身が決めています。今年のテーマは「環境問題」。

ニューヨークの都市環境計画専門家GYCのインターン経験者でもあるマデリン・シェンフェルドさんや、大阪YMCA国際専門学校卒業生で2つの会社を起業した稲井恒介さん。また気候変動活動家の今井えりなさんなど5人の専門家によるパネルディスカッションが行われ、国内外から100人が参加しました。一人ひとりの工夫で気候変動は抑止できること、トップダウンではなくボトムアップで取り組む意義などを学びました。

以前には「若者のメンタルヘルス」や「SNSの課題」といったテーマにも取り組み、模擬国連を行い、その意見を大阪YMCA会長に提出したこともありました。その結果、土佐堀会館では、省エネのため自販機を減らしたり、プラごみ削減のため雨傘袋を「傘ふり場」に変えるなど、小さくても具体的なアクションを起こす体験を重ねる中で、多くのユースが成長しています。

私はもともとオーストラリアの動物保護団体などで働いていましたが、大阪YMCAの日本語学校で学んだことがきっかけでYMCAのスタッフになりました。日本は海外でも人気の高い魅力的な国ですが、若者たちがおとなしすぎる気がします。個人的な意見ですが、伝統的な（暗記中心の）教育によって大きなプレッシャーをかけられていて、体験の機会が狭められている。ユースの力が社会的に抑えられている気がします。若者はもっと自由でいい。もっと視野を広げて、世界で何が起きているのか、自分はその中で何がしたいかを考えてほしい。それが見えてくるともっとパワーが出てくると思うのです。グローバル市民として、自分の夢をもって。自信をもって、世界に向かって発信してほしいと思います。

コロナ禍でしばらくイベントの休止が続きましたが、オンラインで開催できるようになりましたので、これからは日本中のYMCAと協働して、たくさんのユースを「エンパワー」できるようこの輪を広げていきたいと思っています。今年のカンファレンスは8月第2週に開催予定です。詳細は下記サイトをご覧ください。

<https://global-engagement.wixsite.com/globaldepartmentblog/gyc> （聞き手・文＝編集部）

### Amazon「みんなで応援」プログラム ご支援ありがとうございます

Amazonによる社会貢献活動の一つである「みんなで応援」プログラム。YMCAの活動に必要な品物をAmazonのサイト上で公開し、趣旨に賛同した方々にその品物をご購入いただくと、送料無料で各YMCAに届けられる仕組みです。

年末には留学生やウクライナ避難民の子どもたち等に多数のクリスマスプレゼントをいただきました。3月からは新年度に向けて、文房具などの寄附をお願いします。引き続きご協力をお願いします。



[https://www.ymcajapan.org/newlife\\_ouen/](https://www.ymcajapan.org/newlife_ouen/)





## 「いじめは一人で解決できないから」 #ピンクシャツデーに 30都道府県 5万人超参加

学校で把握されたいじめの件数が61万件と過去最多となる中、今年も2月22日前後に全国YMCAは「ピンクシャツデー」を開催。園児、学生、地域の方々など5万人余りがピンクの服や小物でいじめ反対をアピールしたほか、いじめを考える授業を行うなど、各地で工夫をこらした取り組みを行いました。

今年は鹿児島県知事も賛同くださったほか、山梨YMCAの子どもたちが甲府市役所を訪れるなど、多数の行政や企業などが協力くださり、地域での「ピンクシャツデー」の拡がり実感されました。

スタッフを対象とした研修では、NPO法人「ストップいじめ!ナビ」の弁護士・金子春菜さんと足立悠さんを招き、いじめ予防のための大人の責務や、指導上の留意点などを学習。また大阪YMCAではLGBTQについて学ぶなど、いじめから子どもたちを守るため、大人たちも学びを深める機会となりました。

▼全国YMCAの取り組みは、こちらのフェイスブックをご覧ください。

<https://www.facebook.com/japanymcapinkshirtday/>



徳島県阿南市立橋泊小学校(写真)と橋町中学校で、いじめを考える出前授業を行いました。(大阪YMCA)



学生ボランティアがピンクシャツデーの絵本を制作。皆でいじめについて考えました。(埼玉YMCA)



### 「市役所にも伝えに行こう」 子どもの発案で教育長訪問

山梨YMCA

山梨YMCAでは、学童保育や児童クラブ、放課後等デイサービスに通う子どもたちが2月21日、甲府市役所を訪問。教育長に面会してピンクシャツデーを紹介したほか、地元の商店街でパレードも行いました。このアイデアは放課後等デイサービス「きらきら教室」で、「今年のピンクシャツデーは何をしようか」と子どもたち自身が話し合った際に出されたもの。急な依頼にもかかわらず市役所は「子どもの声を受け止めたい」と、わずか3日間で対応。商店街の皆さまも快く協力くださいました。

ともするといじめの対象になりやすい、障がいのある子ども自身から声があがったこと、その声を多くの大人が受け止めてくれたことで、「大人(社会)はわたしたちの声を聞いてくれる」「権利は守られる」という貴重な体験になったと思います。担当したスタッフも、「地域で子どもを育てる」とはこういうことかと、子どもの一声から大きな学びを与えられました。

山梨YMCA 福田 奈里子

## ウクライナから日本へ

### —— 長期化する避難生活 ——

#### >>> 侵攻一年 特別企画「避難者が語る“いま”“これから”」

日本での避難生活が長期化するにつれ、就労や教育など生活設計に関わる課題が生じていることから日本YMCA同盟は2月18日、新宿区四谷でトークイベントを開催。避難者14人と支援団体やメディアなど計50人が語り合いました。



「仕事が見つからない」「子どもの進学が不安」。避難者からは、本国の家族を案じながら、文化も言葉も異なる日本で暮らす苦悩が語られるとともに、「日本に恩返ししたい」との声も。オンラインでITの仕事をしているベルナツカ・ユリヤさんは、「支援を受けるだけでなく、何か貢献したい」と、他の避難者にIT技術を教え、キャリアを活かす試みを始めたと紹介しました。

自身も避難者でカウンセラーのナタリア・ネステレンコさんは、「避難者の2~3割はPTSD等から立ち直れずにいる」と指摘。引き続き戸別訪問やカウンセリングが欠かせない状況であることが報告されました。

続くパネルディスカッション「日本社会が問われていること」に登壇した東京都職員からは、「今回のウクライナ避難民への支援を機に、すべての外国人にとって暮らしやすい社会が実現できれば」との抱負も語られ、官民連携しながら誰もが安心して暮らせる多文化共生社会を目指すことを確認。この様子はNHKや五大紙などで広く報道されました。

日々の支援活動の様子はTwitterをご覧ください。

<https://twitter.com/YMCAHELPUKRAINE>



#### >>> 【ウクライナYMCA】オンラインで近況報告会(2/24)

ウクライナYMCAは2月24日、各国に向けオンラインで近況を発信しました。それによれば現在、東部ルハンスクやクリミアなど4カ所を除き、国内20カ所で保育や障がい児プログラムなどを継続。子どもも大人もメンタルケアが必要なため、リフレッシュキャンプやヨガ、レクリエーションなど、ストレス対策プログラムにも力を入れているほか、リビウなど5カ所で、家屋を失った方の避難所も運営。家族を亡くした子どももいることから、今後ユースセンターを作るなどして中長期的な支援活動を予定しています。



#### >>> 避難者の居場所「みどりクラブ」スタート(横浜YMCA)

横浜YMCAは、受託運営する地域ケアプラザが主体となり、ウクライナの人びとの居場所「みどりクラブ」を2月からスタート。初回の6日は生活情報の交換やアクセサリ作りをしたほか、生活状況のヒアリングなども行われました。横浜市に避難するウクライナの人びとの5人に1人が緑区に在住していることから、地域のことを知り、暮らしやすくするために今後も月1回程度開催予定です。活動の終わりには、関係団体から新鮮な野菜や手編みのマフラーや帽子のプレゼントがありました。



#### ポジティブネットYMCA国際協力募金

引き続き、ご支援ご協力をお願いします。

- ゆうちょ銀行 振替口座(振替貯金)  
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
- クレジットカード・銀行振込は下記サイトから  
<https://srv.asp-bridge.net/ymca/privacy/4>

